



不稔米を発生させる「イネカメムシ」に注意してください

近年茨城県内では「イネカメムシ」の発生が増加傾向です。イネカメムシは、出穂期～乳熟期に籾を加害することにより不稔米を発生させ、それ以降の加害では斑点米になります。イネカメムシの発生状況によっては、不稔により大幅な減収となる可能性があります。

イネカメムシによる不稔を防ぐための防除適期は出穂期（圃場全体の4～5割が出穂した日）、斑点米を防ぐための防除適期は乳熟期（およそ出穂期の8～12日後頃）となります。カメムシ類の発生量が多い場合は、出穂期の防除のあと7～10日後に追加防除を行うことで、不稔と斑点米の発生を減少させることができると考えられます。

また、イネカメムシは稲を好んで加害するため、周囲より出穂が早いほ場や遅いほ場などは集中加害を受ける場合がありますので、発生状況に特に注意が必要です。



←イネカメムシ成虫

イネカメムシによる→
斑点米



ズッキーニの有利販売に向けて生産者が規格を確認

5月22日、JA常総ひかり石下野菜集出荷所にて、ズッキーニ統一目揃え会が開催され、生産者18名が参加しました。

部会長からは「他産地をリードするための有意義な目揃え会にしてほしい。」と挨拶がありました。市場担当者からは「他産地の出荷期と重なるので、品質維持と規格厳守が重要。」と話がありました。

現物を用いた目揃えでは、出荷規格や品質、出荷時の注意点などについて、生産者と市場担当者で活発な意見交換がなされました。また、当普及センターからは、今後発生が予想される病害虫とその対策について情報提供を行いました。

管内のズッキーニは4月上旬から出荷が開始され、病害虫などによる被害もなく、順調に生育しています。今後も巡回などを通して、安定生産に向けた支援に取り組んでいきます。



出荷時の注意点を
確認する生産者

ナシの大玉生産に向けて生産者が管理のポイントを確認

5月1日及び7日、結城市・八千代町のナシ園において、JA北つくば結城園芸部会果樹部、JA常総ひかり八千代地区梨部会の摘果講習会が開催され、延べ27名の生産者が参加しました。

普及センターから大玉生産に向けた摘果と新梢管理のポイントや今後の黒星病、カメムシ類防除の注意点について説明した後、参加者とともに会場の樹を用いて実際に摘果や若木の新梢管理を行いました。

今年の「幸水」は、満開日は平年よりも4日ほど遅くなりましたが、開花期間は好天が続いたことから着果や肥大は概ね良好であり、順調に生育しています。今後も高品質安定生産に向けて継続的に栽培支援を行っていきます。



栽培管理のポイントを確認する生産者

農作業中の熱中症を予防しましょう！

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。

令和7年6月に労働安全衛生規則が改正され、熱中症の恐れがある作業への適切な対処が義務付けられました。

正しい知識を身につけ、適切な予防や対処をできるようにしましょう！

【予防のポイント】

- 暑さを避ける(高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業)
- こまめな休憩と水分補給(のどの渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給)
- 単独作業は避ける(複数名で作業を行う。時間を決めて連絡をとり合う)
- 熱中症対策アイテムの活用(帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用)

『熱中症が疑われる場合には』

- 01 作業を中断
(代表的な症状：汗をかかない、体が熱い、めまい、吐き気、頭痛、倦怠感、判断力低下)
- 02 応急処置(涼しい環境へ避難。衣服をゆるめ体を冷やす。水分・塩分を補給)
- 03 病院へ
(応急処置をしても症状が改善しない場合は医療機関で診察を受けましょう！！)



県立農業大学校「体験入学」のご案内

茨城県立農業大学校では、農業に関する幅広い知識と高度な生産・経営技術を学ぶことができます。今年も学校の様子や各学科・コースを知ってもらうために体験入学を行います。興味のある方はぜひ農業大学校までお問合せください。

【お問合せ先】

〒311-3116

茨城県東茨城郡茨城町長岡4070-186

茨城県立農業大学校

TEL：029-292-0010 FAX：029-292-0903



農薬の適正使用を心がけましょう！！

